

第1回 明石市観光振興基本構想懇話会 議事要旨

日 時

平成 22 年 8 月 11 日（水） 14:00～

場 所

明石市役所 議会棟 大会議室

議事要旨

1 委嘱状交付

2 開会挨拶（村松副市長）

・明石市は、観光客の集客で県下第 2 位の明石公園、明石海峡大橋、日本標準時子午線と市立天文科学館、源氏物語ゆかりの史跡、タイやタコといった食材、ご当地グルメの明石焼など、実にさまざまなタイプの観光資源を有している。

・平成 10 年度に「明石市観光振興基本構想」を策定後、市民、事業者、行政が連携し、明石の食材を活かした様々なイベントの実施や、各種媒体を招く観光メディアツアーを開催し、マスコミに取り上げられる機会を増やした。

・一方で、少子高齢化やインターネットの普及など我々をとりまく環境は変化しており、時代に応じた観光ニーズなどを的確にとらえる必要がある。そのため、昨年度に『明石市観光振興基本構想』策定に係る観光実態・ニーズ調査」を行い、明石を訪れた観光客や、明石の観光関係機関・団体から多くのご意見をいただいた。これらの貴重な意見を踏まえて、新しく「明石市観光振興基本構想」を策定するため、今回、委員の皆様にご議論をお願いする次第である。

・本構想は、現在策定中の「第 5 次長期総合計画」の実行計画として、今後のまちの賑わいづくり、魅力あるまちづくりにつながる重要なものである。委員の皆様の積極的なご意見、ご助言をいただき、実のある構想の策定をお願いしたい。

3 出席者自己紹介

4 会議の運営について

- ・事務局より本構想策定の趣旨、スケジュール等について資料説明。
- ・会議の運営について合意した。

5 協議

- ・事務局より協議事項について資料説明。

(会長)

- ・明石の観光の課題について、ご意見を頂いていきたい。

(委員)

- ・本町通り商店街の建物には昭和の趣きを感じられて良いのだが、シャッターが閉まっている店舗が多く、なんとかできないものかと思っている。
- ・市立文化博物館に新設されたアクセスエレベーターの横に空き家があり、景観上、気になる。
- ・「ちょいのりバス」の取り組みは良い。

(委員)

- ・明石の海岸線には、景観の素晴らしいサイクリングロードや、海を見ながらゆったりできる場所がある。しかし、そこに店舗など拠点になるものが無いように思う。魚を食べられる店をPRするとか、イタリアや南フランスの店のイメージをかぶせて明石を売ってみてはどうか。

(委員)

- ・昔の明石には「京阪神の別荘地」という雰囲気があった。
- ・観光振興を考えると、「人がたくさん来ればいい」という方向に流れがちだが、例えば、明石公園のイベントに多くの人 came とき、駅商業ビルのごみ箱が溢れ、地元の商店街もあまり潤わず、住民にも「人が多く来て、環境が破壊され、良いことが無い」と思われてしまうことがある。明石にとって何が重要なのか、基本理念になることをまず確認し、共通認識すべきだ。住む人にも、商売している人にもプラスになるのが観光振興だと思う。

(会長)

- ・観光振興の目的として、経済的価値だけでなく、観光を通じた市民の生きがいづくりなどの社会的価値、文化的価値も含めて考え、それを共通認識とすべきではないかというご意見であった。この指摘は重要であり、大事にして議論していきたい。

(委員)

- ・漁師が思う明石のイメージは「魚のまち」であるが、ほかの明石市民は、魚が獲れることは知りつつも、まちを代表するイメージとまでは思っていないようだ。
- ・歴史的な魅力は姫路に、現代的な魅力は神戸にかなわない。明石は「ちょっと明石焼を食べに行こうか」と気軽に来訪されている。ターゲットを若者にすべきか、お年寄りにすべきか微妙なところだが、若者の来訪を促進するならば、海岸を、花火もできる遊べる区域と、そうでない区域に分けた方がよい。また、海岸の砂浜がきれいになり、夕陽や朝陽が美しく見える場所があることは、あまり知られていない。
- ・フィッシャーマンズワープのような、とにかく「明石は、これや！」というものを一つ造っていただきたい。

(委員)

- ・16 kmある海岸線をもっと活用すべきだ。また、大型バスによる観光の受入れ体制が不十分である。

・神戸学院大学に在籍する約9千人の学生・教員の3分の1は、明石駅北側からバスに乗る。こうした若い人が集える場が市内にもう少しあるとよい、と学長からお話を聞いたことがあり、考えねばならないと思っている。

・来街者が多ければいいのか、住民が楽しめる場がいいのかといった点に関して、私たちは中心市街地で集客イベントを仕掛けているが、本当にそれでよいのかについても考えていきたい。

・東播磨一帯で産業ツーリズムを振興しているが、明石市内での取り組みはまだ少ない。

(会長)

・通勤者、通学者を観光振興のターゲットとする考え方もありうるだろう。

(委員)

・観光振興とは、地元の商売に効果をもたらすことではないだろうか。明石駅から観光施設に行く動線上で地元経済が活性化されればよいと思う。ただし、明石駅から魚の棚までの間で何かを仕掛けるのは、立地条件から考えると難しいので、今後は、本町通りの魅力を掘り起こし、歩く人の流れを増やしていくのがよいだろう。地元の商店街が元気になる施策を打ち出して頂けるとよいと思う。

・資料⑤の姫路・神戸・明石の共同PRはよい取り組みだ。資料⑥の課題で「滞在期間が短い」とあるが、これを逆に利用して、神戸・姫路を訪れた人に足を延ばしてもらうことから始めてはどうか。

(委員)

・資料⑤の観光入込客数について、明石市はどのような集計方法をとっているか。

(事務局)

・各施設に問合せ、入込客数の数字をいただいている。

(委員)

・芦屋市の公立小学校は校外学習で魚の棚を訪れている。滞在1時間のうちに魚を1,000円で買う体験をするのだが、わが子が結構買ってきただけで驚いた。

・現地で何らかの体験をすることは、大人に対しても「売り」になる。明石に行って「何が見られるか」ではなく、「何ができるか」が重要であり、そのPRに力を入れて取り組んではどうか。明石は、見る資源は豊富にあるが、そこへ行って何ができるかの部分が少ない。

・長野県飯田市は、全国から小中学生の修学旅行を集めている。地元の農家や船頭さんの日常の生業を体験し、農家に民泊できるプログラムを作ってPRした成功例である。

(会長)

・長野県飯田市では、榑南信州観光公社という組織が活躍している。このようなプラットフォームに関する国の取り組みが来年度に向けて進んでいる。観光協会は会員のために活動しなければならないという制限があるため、プラットフォームをつくりながら、観光協会では捕捉できない方々の活動も含めてスムーズに展開することが一つの流れになってきている。本構想の計画期間が10年であることを思えば、プラットフォームに関する議論は必要だろう。

(委員)

- ・観光で成功している地域にはハングリーな仕掛け人がいる。明石は住みやすいまちであり、のんびりした雰囲気のある土地で、人はあまりハングリーではない。観光に頼らなくてもやってこられた。
- ・明石海峡大橋の開通後、人の流れは、明石港で年間 350～400 万人、明石駅(JR・山陽)で年間 400 万人減少した。1日あたり 2 万人強が減ったわけで、その端的な例が、本町通りにシャッターを閉めた店が増えたことだ。中心市街地の売上高は 20～25%減り、空き店舗は 10 数%になった。魚の棚も昔と比べて魚屋が減り、その空き店舗に明石焼の店が入った。
- ・橋の開通による通過者減の現状の前では、住民が好むと好まざるとにかかわらず、明石にとって観光は重要になっている。年間の消費額が 4,000 億円を切っている現在、資料⑤の日帰り客の観光消費額 4,461 円と入込客 500 万人が生む消費額はその数%であっても重要だ。

(委員)

- ・ありきたりの観光は飽きられてきており、観光に関する人々の意見は変化している。観光振興の理念づくりにおいては、ただお金が儲かるまちを目指すのではなく、明石により良い暮らしがあり、そこへお客さんがやって来て、フレンドリーに迎えることを重視すべきだろう。「地元 vs 観光」と対決するのではなく、住んで気持のよいまちに観光に訪れる。そういうまちづくりが必要である。そして、私達の文化はこれだという拠って立つところが要る。
- ・明石らしさを絞りこんで考えることも必要で、東京スカイツリーが話題を集めているのをみると、明石海峡大橋の魅力も大きいのではないか。橋と海峡は明石らしさである。ビューポイントの提示などをしてはどうか。

(副会長)

- ・マーケティングの考え方には反するが、明石の観光振興においては、地域の良さや地域へのこだわりを他地域の人に「押しつける」スタンスで良いと考える。なぜならば、明石は観光振興に必死で取り組まなければ食べていけない地域ではないからだ。余裕のあるまちだ。委員の皆さんや事務局の方のお話の共通点として、それが挙げられたと思う。
- ・「押しつける」という表現は、和歌山県の旧本宮町に調査で入った時に、地元の方が繰り返しおっしゃっていた表現を借りている。観光は「国の光を観る」のであるが、同時に「国の光」を示し、地域が豊かであることを他地域の人にプライドを持って見せることでもある。観光振興部長は「明石は何も無いけれど、魚は美味しいです」と笑顔でおっしゃった。そういう「自慢」をどんどん拾ってあげばよいと思う。観光資源はかなりレベルの高いものがそろっている。
- ・他地域との広域的な連携をどの程度考えていくか。今はまだ「明石で何かをする」ことを主目的に観光客が動いていないので、姫路・神戸・淡路から立ち寄ってもらい、立ち寄った人々に「明石はすごいだろう」と「押しつけて」見せていくことが考えられる。ただし、広域連携については、そもそも本懇話会で検討してもよいものか、明石の構想だから明石だけで行う施策を考えるべきなのかを議論する必要がある。
- ・テクニカルな話を付け加えたい。観光振興の主体が公的機関の場合は、主観的な情報や評価がからむ情報を出しづらい。そういう情報を出せる体制 — 例えば、大学生を参加させる — が必要になる。また、実効性の高い新しいメディアに情報を出すべきだ。いまの大学生は新聞を読まず、インターネット、特に主観に基づく評価が溢れるブログを熱心に見ている。そういうメディアに取り上げら

れる仕掛けも考えてはどうだろうか。

(会長)

- ・本日の議論を、資料⑥の「課題(素案)」に沿って順番にまとめてみると、
 - ：「観光振興の目的を明確にすべき」ことを課題にプラスする。
 - ：「観光資源の発掘、活用、ネットワーク化」に関しては「体験の重視」「体験を担う組織のあり方」について指摘があった。
 - ：「新たな顧客の開拓」よりも、誰に明石に来てほしいかを考え直そうという指摘があった。
 - ：「戦略的な PR」に関しては、主観や評価に関わる情報を定期的に出していくべきであり、また、他地域と連携した共同 PR からみえてくるものがあるという指摘があった。
- ・私の意見を付け加える。今後 10 年間にわたって行う施策の検討にあたり、国の方針や施策を見据え、また、うまく活用していくことが重要であると思う。国が推進する観光振興策を明石が取り込んでいけるかを考えてみたい。具体的には、他地域と連携した観光圏の形成や、観光地域づくりのプラットフォーム立ち上げなどである。
- ・事務局は本日の議論を踏まえて課題を整理し、次回に向けて議論をとりまとめていただきたい。

5 閉会

(事務局)

- ・今回は、明石市がめざす姿、目標の設定について議論を広げていきたい。

以 上